研究課題　加藤嘉明関係文書の総合的研究―史料編纂所架蔵影写本「近江水口加藤子爵家文書」を基盤に―

研究経費　二六万三八〇七円（前年度よりの繰越分）

研究組織

　研究代表者　　　山内治朋（愛媛県歴史文化博物館）

　所内共同研究者　井上聡・村井祐樹・畑山周平

　所外共同研究者　井上淳（愛媛県歴史文化博物館）・土居聡朋（愛媛県教育委員会生涯学習課）・藤本誉博（〔一財〕今治文化振興会今治城）・川島佳弘（松山市坂の上の雲ミュージアム）・甲斐未希子（愛媛県スポーツ・文化部まなび推進課）

研究の概要

（１）課題の概要

　加藤嘉明は、豊臣秀吉のもとで大名となり、秀吉没後は徳川家康のもとでその地位を固めた近世初期の大名である。その領国支配は伊予国内で３２年と生涯の約半分に及び、伊予の近世の礎を築いた一人である。これまで、自治体史・展覧会図録などに掲載された関連史料も少なくないが、集約的な史料集や目録などはいまだ作成されておらず、近年愛媛県で松山城築城者として嘉明への関心が高まりを見せる反面で、嘉明に関する研究はあまり進んでいない現状にある。本研究では、昨年度の加藤嘉明受給文書の収集・調査に引き続き、発給文書および関連する一次史料について、加藤嘉明関係自治体における情報・データベースなどを活用するとともに、愛媛県の博物館活動の成果なども継承しつつ情報把握・整理を進める。未調査の史料については史料調査を行うなどしながら、目録化を進め、未公刊の史料を紹介し、今後の加藤嘉明関連の研究に資する基本情報を公開する。

（２）研究の成果

　以下、調査を行った文書をあげる。   
　【大阪調査】  
　〔大阪城天守閣所蔵文書〕  
　【愛媛調査】  
　〔愛媛県歴史文化博物館所蔵文書〕〔歯長寺文書〕〔光林寺文書〕　　　　　　　　　　　　  
　　以上の内、愛媛県歴史文化博物館所蔵の加藤嘉明関係史料は、新出文書であり、発見された意義は極めて大きい。また歯長寺文書・光林寺文書は百数十年ぶりの本所による採訪で初めて写真撮影が行われた。　  
　東京大学史料編纂所研究成果報告二〇二一―四「近江水口加藤子爵家文書―豊臣政権編―」を刊行した。